



平成30年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年12月6日

上場会社名 株式会社東京楽天地 上場取引所 東
 コード番号 8842 URL http://www.rakutenchi.co.jp
 代表者(役職名) 取締役社長 (氏名) 中川 敬
 問合せ先責任者(役職名) 取締役経理部長 (氏名) 岡村 一 (TEL) 03(3631)5195
 四半期報告書提出予定日 平成29年12月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年1月期第3四半期の連結業績(平成29年2月1日～平成29年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年1月期第3四半期	7,957	△1.2	1,255	14.9	1,384	25.4	970	38.7
29年1月期第3四半期	8,057	18.1	1,092	△9.5	1,104	△15.6	699	△12.8

(注) 包括利益 30年1月期第3四半期 1,494百万円(96.2%) 29年1月期第3四半期 762百万円(△43.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年1月期第3四半期	162.20	—
29年1月期第3四半期	116.92	—

当社は、平成29年8月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年1月期第3四半期	42,387	30,039	70.9	5,021.43
29年1月期	42,306	29,027	68.6	4,852.09

(参考) 自己資本 30年1月期第3四半期 30,039百万円 29年1月期 29,027百万円

当社は、平成29年8月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年1月期	—	3.00	—	5.00	8.00
30年1月期	—	3.00	—	—	—
30年1月期(予想)	—	—	—	30.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成30年1月期(予想)の1株当たり期末配当金につきましては、株式併合の影響を考慮しております。詳細は、「※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

3. 平成30年1月期の連結業績予想(平成29年2月1日～平成30年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,500	△2.4	1,600	9.5	1,700	16.1	1,100	33.9	183.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

通期の連結業績予想における1株当たり当期純利益につきましては、株式併合の影響を考慮しております。詳細は、「※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、 除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年1月期3Q	6,511,218株	29年1月期	6,511,218株
② 期末自己株式数	30年1月期3Q	529,553株	29年1月期	528,756株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年1月期3Q	5,982,195株	29年1月期3Q	5,982,905株

(注) 前連結会計年度の期首に株式併合が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数および期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(株式併合に伴う配当および業績予想について)

平成29年4月27日開催の第118回定時株主総会において、同年8月1日を効力発生日とする株式併合に関する議案が承認可決され、普通株式10株につき1株の割合をもって併合し、単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。なお、株式併合を考慮しない場合の平成30年1月期の配当予想および連結業績予想は以下のとおりです。

- (1) 平成30年1月期の配当予想
- 1株当たり配当金
- 期末配当金 3円00銭
- 通期 6円00銭
- (2) 平成30年1月期の連結業績予想
- 1株当たり当期純利益
- 通期 18円39銭

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計上の見積りの変更)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や日銀の金融緩和政策の効果を背景に、企業収益や雇用情勢は改善し、個人消費も持ち直しが見られるなど、景気は緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、海外経済の不確実性が依然として残るなど、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような状況下にあつて、売上高は7,957百万円と前年同四半期に比べ100百万円(1.2%)の減収となり、営業利益は1,255百万円と前年同四半期に比べ162百万円(14.9%)の増益、経常利益は1,384百万円と前年同四半期に比べ280百万円(25.4%)の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は970百万円と前年同四半期に比べ270百万円(38.7%)の増益となりました。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

(不動産賃貸関連事業)

不動産賃貸事業では、主力の楽天地ビルにおいて、昨年4月にリニューアルオープンした2階レストラン街が期首から売上高に寄与し、その他のビルも意欲的なリーシング活動により堅調に稼働しましたが、一昨年12月に東京楽天地浅草ビル内にオープンした商業施設「まるごとにつぼん」の開業効果が一巡したこともあり、前年同四半期を下回りました。

なお、楽天地ビルのキーテナントであったLIVIN錦糸町店は、本年10月9日をもって閉店しましたが、改修工事の後、地下1階に合同会社西友が運営する食料品・日用品に特化した店舗が平成30年秋(予定)に再出店し、1階から7階に株式会社パルコが運営する商業施設が平成31年春(予定)に新たに出店いたします。

ビルメンテナンス事業では、厳しい入札競争のもと、積極的な営業活動を実施し収益の確保に努めたことから、売上高は前年同四半期を上回りました。

以上の結果、不動産賃貸関連事業の売上高は4,694百万円と前年同四半期に比べ3百万円(0.1%)の増収となり、セグメント利益は1,922百万円と前年同四半期に比べ149百万円(8.4%)の増益となりました。

(娯楽サービス関連事業)

映画興行事業では、大ヒットとなった「美女と野獣」をはじめ、「名探偵コナン から紅の恋歌(ラブレター)」「怪盗グルーのミニオン大脱走」「SING/シング」等の作品が好稼働したことに加え、デジタル回線を使用して演劇公演やコンサート映像をライブ中継するなど、客席稼働率の向上をはかりましたが、昨年「君の名は。」が記録的大ヒットとなったこともあり、売上高は前年同四半期並みとなりました。

温浴事業では、「天然温泉 楽天地スパ」において、各種イベントや接客サービスの向上に努め、リピーターの獲得に繋がりましたが、「楽天地天然温泉 法典の湯」において、設備修繕のための休館日を増やしたことなどから、売上高は前年同四半期を下回りました。

フットサル事業では、「楽天地フットサルコート錦糸町」、「楽天地フットサルコート調布」とともに競合店との競争激化などにより稼働率が伸び悩み、売上高は前年同四半期を下回りました。

以上の結果、娯楽サービス関連事業の売上高は2,405百万円と前年同四半期に比べ7百万円(0.3%)の減収となり、セグメント利益は270百万円と前年同四半期に比べ36百万円(12.0%)の減益となりました。

(飲食・販売事業)

飲食事業では、昨年リニューアル工事のため休業していた「ドトールコーヒーショップ 錦糸町店」および「同シャポー本八幡店」が期首から売上高に寄与し、前年同四半期を上回りました。なお、「同 船橋北口店」は、本年6月29日をもって営業を終了いたしました。

販売事業では、「まるごとにつぼん」の直営店において、お客さまの嗜好に合った品揃えの充実および接客サービスの向上など、引き続き魅力的な店づくりに努めましたが、売上高は前年同四半期を下回りました。

以上の結果、飲食・販売事業の売上高は857百万円と前年同四半期に比べ95百万円(10.0%)の減収となり、セグメント損失は0百万円(前年同四半期はセグメント損失70百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は42,387百万円と前連結会計年度末に比べ81百万円の増加となりました。これは主として、有形固定資産の減価償却がすすんだこと、および株価の上昇により投資有価証券が増加したことによるものであります。

② 負債

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は12,348百万円と前連結会計年度末に比べ930百万円の減少となりました。これは主として、東京楽天地浅草ビルの不動産取得税等の支払いによりその他の流動負債(未払金)が減少したこと、および借入金を返済したことによるものであります。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は30,039百万円と前連結会計年度末に比べ1,011百万円の増加となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したこと、その他有価証券評価差額金が増加したこと、および配当金を支払ったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成29年9月6日発表の数値を変更しておりません。

1. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,445,523	3,707,910
売掛金	258,606	272,130
リース投資資産	733,502	730,511
有価証券	100,000	100,000
その他	300,076	291,733
貸倒引当金	△108	△53
流動資産合計	4,837,599	5,102,233
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	22,998,853	22,066,997
土地	5,637,048	5,634,648
その他(純額)	933,605	877,732
有形固定資産合計	29,569,507	28,579,378
無形固定資産	309,627	302,742
投資その他の資産		
投資有価証券	6,833,175	7,700,720
その他	756,527	702,563
投資その他の資産合計	7,589,702	8,403,283
固定資産合計	37,468,837	37,285,405
資産合計	42,306,437	42,387,639

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	382,845	386,481
1年内返済予定の長期借入金	990,000	990,000
未払法人税等	216,877	203,428
賞与引当金	47,032	110,127
その他	1,885,117	1,519,590
流動負債合計	3,521,872	3,209,628
固定負債		
長期借入金	4,690,000	3,947,500
退職給付に係る負債	633,633	674,100
資産除去債務	539,229	518,932
受入保証金	3,153,068	3,054,410
その他	741,176	943,787
固定負債合計	9,757,108	9,138,731
負債合計	13,278,980	12,348,359
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,046,035	3,046,035
資本剰余金	3,378,537	3,378,953
利益剰余金	22,577,494	23,069,228
自己株式	△1,987,476	△1,992,443
株主資本合計	27,014,591	27,501,774
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,012,865	2,537,504
その他の包括利益累計額合計	2,012,865	2,537,504
純資産合計	29,027,456	30,039,279
負債純資産合計	42,306,437	42,387,639

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年10月31日)
売上高	8,057,267	7,957,217
売上原価	5,899,049	5,695,785
売上総利益	2,158,217	2,261,432
販売費及び一般管理費	1,065,274	1,005,491
営業利益	1,092,943	1,255,941
営業外収益		
受取利息	585	38
受取配当金	26,233	47,329
持分法による投資利益	113,749	111,362
その他	23,158	18,624
営業外収益合計	163,726	177,354
営業外費用		
支払利息	40,646	30,761
固定資産除却損	108,036	8,025
その他	3,345	9,735
営業外費用合計	152,028	48,523
経常利益	1,104,641	1,384,772
税金等調整前四半期純利益	1,104,641	1,384,772
法人税等	405,149	414,449
四半期純利益	699,492	970,323
親会社株主に帰属する四半期純利益	699,492	970,323

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年10月31日)
四半期純利益	699,492	970,323
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	62,599	524,639
その他の包括利益合計	62,599	524,639
四半期包括利益	762,092	1,494,962
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	762,092	1,494,962
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計上の見積りの変更)

(耐用年数の変更)

当社は、平成29年3月15日開催の取締役会において、当社が保有する楽天地ビル(東京都墨田区)の旧LIVIN錦糸町店部分を中心とするリニューアルを決議したことに伴い、第1四半期連結会計期間より除却見込みとなる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。

また、平成29年7月19日開催の取締役会において、TOHOシネマズ錦糸町および楽天地シネマズ錦糸町の改装工事を決議したことに伴い、第2四半期連結会計期間より除却見込みとなる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。

これらにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上原価が72,284千円増加し、売上総利益、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ72,284千円減少しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(役員退職慰労金制度の廃止)

当社は、平成29年4月27日開催の第118回定時株主総会において、役員退職慰労金制度の廃止に伴う退職慰労金の打ち切り支給を決定いたしました。

これに伴い、「役員退職慰労引当金」を全額取崩し、打ち切り支給額の未払分84,490千円を「長期未払金」として固定負債の「その他」に含めて表示しております。

なお、連結子会社については引き続き、役員退職慰労金の支給に備えるため内規に基づく要支給額を「役員退職慰労引当金」(固定負債の「その他」)に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年2月1日至平成28年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (千円) (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注2)
	不動産賃貸 関連事業 (千円)	娯楽サービス 関連事業 (千円)	飲食・販売 事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	4,690,634	2,413,206	953,426	8,057,267	—	8,057,267
セグメント間の内部 売上高または振替高	293,175	1,000	1,045	295,220	△295,220	—
計	4,983,809	2,414,206	954,471	8,352,487	△295,220	8,057,267
セグメント利益または損失(△)	1,773,131	307,218	△70,313	2,010,035	△917,092	1,092,943

(注) 1. セグメント利益または損失の調整額△917,092千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△935,170千円、セグメント間取引消去18,078千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年2月1日至平成29年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (千円) (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注2)
	不動産賃貸 関連事業 (千円)	娯楽サービス 関連事業 (千円)	飲食・販売 事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	4,694,103	2,405,385	857,727	7,957,217	—	7,957,217
セグメント間の内部 売上高または振替高	291,765	1,052	654	293,472	△293,472	—
計	4,985,869	2,406,438	858,382	8,250,690	△293,472	7,957,217
セグメント利益または損失(△)	1,922,801	270,288	△119	2,192,970	△937,029	1,255,941

(注) 1. セグメント利益または損失の調整額△937,029千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△928,974千円、セグメント間取引消去△8,054千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

「会計上の見積りの変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、当社が保有する楽天地ビルにおいて除却見込みとなる固定資産について、また、第2四半期連結会計期間より、TOHOシネマズ錦糸町および楽天地シネマズ錦糸町において除却見込みとなる固定資産について、それぞれ耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、「不動産賃貸関連事業」で51,710千円、「娯楽サービス関連事業」で20,574千円それぞれ減少しております。